

press release

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2018年12月3日
PRESS-18-33

1 型糖尿病の田仲駿太さん(18歳)

「ニュージーランド サウスランドトラック チャンプス」男子ケイリン優勝

男子スプリント 3位と初の海外レースを大健闘

ノボ ノルディスク ファーマは、世界で活躍できる糖尿病を持つアスリートを応援しています

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社(社長:オーレ ムルスコウ ベック、本社:東京都千代田区)は、1型糖尿病で鹿屋体育大学自転車競技部1年生の田仲駿太さん(大分県出身 18歳)が、初の海外レースに挑戦し、ニュージーランドのインバーカーギルで行われた自転車競技大会「サウスランドトラック チャンプス」(Southland Track Champs 2018年11月30日~12月2日)の男子ケイリンで優勝、男子スプリント(男子オープン U19 以上のカテゴリー)で3位に入賞したことをお知らせします。また、エリート男子 1,000m タイムトライアルファイナル(マククリーンカップ) では7位に入賞しました。出場した各レースの結果は以下の通りです。

- ・ 12月2日 男子ケイリン 優勝/9人中
- ・ 12月1日 男子スプリント(男子オープン U19 以上のカテゴリー) 3位/13人中
- ・ 11月30日 エリート男子 1,000m タイムトライアルファイナル(マククリーンカップ) 7位/22人中

トラックレースで世界3位の強豪国ニュージーランドのジュニアのトップ選手を中心に総勢180名の選手が95(種目名)に出場する中、田仲駿太さんの本大会を通じた活躍は会場から大きな注目を集めました。田仲駿太さんは、「ニュージーランドはトラックレース強豪国で、自分の力がどれだけ通用するか不安はあった。実際に、ハイレベルな選手がそろい、ジュニアチャンピオンとも対戦し、十分互角に戦える感触を得ることができた」と語りました。

今回、田仲駿太さんは1型糖尿病の選手からなるプロサイクリングチームであるチーム ノボ ノルディスクの元選手で、同チームのアンバサダーを務めるジャスティン モリス氏から糖尿病の管理も含め海外レース出場におけるサポートを受けました。男子ケイリンでは、チーム ノボ ノルディスクの育成チームに所属するハミッシュ・ビードル選手とも決勝戦で対戦し、日本とニュージーランドの糖尿病選手の対決を実現させました。「ケイリンは、日本発祥でもあり、勝ちたい気持ちが強かった。試合展開にも恵まれ、ここぞのパワーを出すことができて嬉しい。海外の選手と積極的にコミュニケーションが取れ、友達もできました。本当に良い経験を積むことができました」と、今回の大会を振り返りました。

田仲駿太さんは8歳の時に1型糖尿病を発症しましたが、病気と前向きに向き合いながらハードな自転車トラックレースに挑戦し、平成29年度の国民体育大会(愛媛)では、ケイリン部門で優勝しています。ノボ ノルディスク ファーマは、糖尿病をもつ人々が病気に前向きに向き合い、夢をあきらめる必要はないことを伝えることを目的に、2018年3月に世界で活躍できる糖尿病を持つアスリートを応援するプロジェクトを開始し、田仲さんが挑戦する海外レースの参加費用を支援しました。来年も引き続き田仲駿太さんをサポートしていきます^{注1}。

※12月5日(水)に東京丸の内ノボ ノルディスク ファーマ本社にて、田仲駿太さんの個別取材を受け付けます。ご希望の方は、ご連絡ください。

【写真】

① 男子ケイリンで1位でゴールした田仲駿太さん(12月2日)



② 男子ケイリンで優勝し、表彰台に立つ田仲駿太さん(12月2日)



③ 男子スプリントで3位入賞の田仲駿太さん(右) 12月1日



注1ノボ ノルディスク ファーマは、糖尿病を持つアスリートとして田仲駿太さんを応援していますが、田仲さんはチーム ノボ ノルディスクには所属していません。

ノボ ノルディスク社は、デンマークに本社を置き、95年以上にわたり糖尿病治療に必要な革新的な医薬品の開発を通じ糖尿病ケアの革新をリードしてきました。糖尿病の克服を目指して培ってきた経験や能力は、肥満、血友病、成長障害といったその他の重篤な慢性疾患の領域にも活かされています。ノボ ノルディスク社は現在79カ国に約4万3,200人の社員を擁し、製品は170カ国以上で販売されています。日本法人は1980年に設立されました。

た な か し ゅん た

田仲 駿太(18 歳)

所属：鹿屋体育大学 (1 年生)
鹿屋体育大学自転車競技部
トラック競技



生年月日：平成 11 年 12 月 9 日

出身地：大分市

出身高校：大分県立別府翔青高等学校 自転車競技部 主将

小学校 2 年生(8 歳)の 3 月に 1 型糖尿病を発症

喉が乾き、トイレが近くなった。いつも通りのご飯を食べているのに痩せていく。授業に集中できないほどのだるさ。病気がわかったときは「このまま自分はどうなるのか、人とは全く違う生活をしなければならないのか」とショックを受けた。しかし、大分で行われている 1 型糖尿病のサマーキャンプに出会い、同じような仲間と生活を共にして励まされた。病気との向き合い方をマイナスに考えていたが、プラスに考えようと決めて 180 度変わった。

日ごろ気をつけていること

ハードな競技をしているので、レース前の血糖管理やレース後の低血糖を減らすための注射の量の設定を主に考えながらコントロールしている。

自転車との出会い

中学 3 年の冬、同じ中学で近所の友人の誘いを受けた。車輪の付いたスポーツに前から興味があったため始めようと思った。

自転車競技での成績(直近)

平成 29 年度

全国高等学校選抜自転車競技大会(福岡・久留米) ケイリン 2 位

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)福島 チームスプリント 2 位

国民体育大会(愛媛) チームスプリント 4 位、ケイリン 優勝

平成 28 年度

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)鳥取 チームスプリント 優勝

全国都道府県対抗自転車競技大会(愛媛) チームスプリント 優勝 スプリント 8 位

国民体育大会(岩手) 1km タイムトライアル 6 位

将来の夢

オリンピックや世界選手権で活躍できるような選手